

令和6年度第1回桑名市上下水道事業経営審議会 議事要旨

日時・場所	令和6年10月24日（木）午前10時30分 多度地区市民センター3階305会議室
出席者	委員：7名（欠1名） 事務局：12名
議事次第	1. 開会挨拶 2. 議事 （1）会長、副会長の選出 （2）令和5年度決算の概要について （3）その他 3. 閉会挨拶
要旨	<p>1. 開会挨拶 上下水道部長挨拶</p> <p>2（1）会長、副会長選出 ・会長に宮脇淳委員、副会長に岡良浩委員を選出。 （2）令和5年度決算の概要について 事務局より水道事業会計の決算について説明 ・管路更新率が低かった理由は何か。 ⇒コストキャップ型下水道の引渡しがされなかったことや駅西の区画整理事業など、他の機関と進めている事業の遅れも影響した。少しでも管路更新率を上げるため、来年度実施予定の箇所を前倒しして発注することを検討している。 ・昨年の料金改定による収益はいくらだったのか。また、それは何に使われたのか。 ⇒料金改定に伴い、令和5年度の経常収支では、2億5,323万円余の利益が出ている。また、その収益は、管路更新や施設の更新等に伴い増加する費用（減価償却費等）に充当している。 ・管路更新率が低下した要因の分析をしてください。 ⇒今後、内部要因、外部要因をそれぞれ分析して審議会に報告する。 ・この審議会で議論するところとしては、営業収支比率が100%を目指すのか、管路更新率を上げると営業収支も悪化すると思いますが。 ⇒営業収支比率については、公費が長期前受金戻入として営業外収益に入っており、営業収支比率ではなく、経営収支比率で100%以上と考えている。管路更新率については、目標の1%/年に向かって事業進めることが重要であると考えている。それ以上の更新率にすると経営指標は悪化すると見込んでいる。 ・有収率が下がった要因は何か。 ⇒漏水の発生が大きな要因と考えている。低下傾向である有収率の改善に向けて、令和6年度は、衛星画像を使用したAIによる漏水判断を実施し、来年度</p>

以降の音による管路調査及び管路布設替工事の優先順位を付け、効果が出る漏水対策を実施する。

事務局より下水道事業会計の決算の概要について説明

・使用料単価は、195 円程度で推移しているのに対して汚水処理原価はそれを下回っており、利益が得られている状況であるが、今後は、見直すこともあるのか。

⇒桑名市は、下水道の普及率が低い状況であった。近年は、普及率向上のために下水道整備を大規模に進めており、今後も目標の普及率まで整備を進める必要があり、投資が必要と考えている。過去の料金改定により、利益が確保できているものの、水道事業からも資金を借り入れている状況で運営していることから、余裕はない状況で、利用料単価及び汚水処理原価の推移を注視する必要がある。

(3) その他

・水道管、下水道管の耐震化率はどのくらいか。

⇒水道管は、25%ほどである。下水道管は、58%超である。

・それぞれ耐震化管路はどのようなものか。

⇒水道管は、耐震性のある鋳鉄管のほか、柔軟性のあるポリエチレン管を使用している。下水道管は、平成9年以降に新耐震基準で施工されている管のことである。

事務局より、今後の審議会の予定について連絡

・今後の審議会の進め方について、十分な議論ができるように、審議会の回数や開催方法を含めて、各委員に相談したい。

⇒会長と相談して方向性を決めていきたい。(会長、副会長一任)

3. 閉会挨拶

上下水道部長挨拶

(以上)